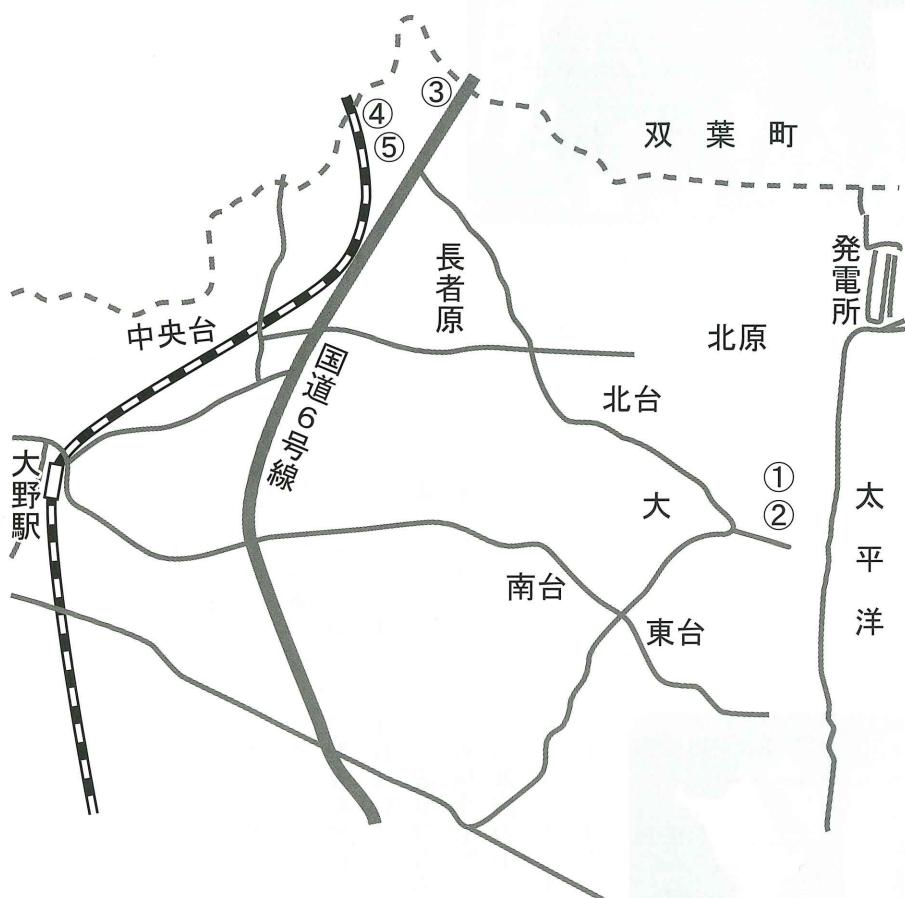


平成17年3月

大熊町を 端から端まで ● 知りつくそう！

● 第1回 夫沢地区



夫沢地区新旧字名一覧表

新	中央台	長者原	北原	万台	南台	大	東台
旧	岩船	くまのさわ			おおぞらやち	つる	やち
	開	や	き	うば	おおぞらやち	鶴谷	谷地
	柿	まつ	まつ	なか	おおぞらやち	い	さわ
	田	いん	隠居坂	の	おおぞらやち	い	さわ
	五郎四郎	かみだんこばし	北原の一部	下	おおぞらやち	金	あらい
	西後内沢	だんこばし	北原の一部		おおぞらやち	寺附谷地	南
	広	しちだんこばし			おおぞらやち	中谷地の一部	はら原
	棚和子	たかいわの一部	高岩の一部	鹿原の一部	おおぞらやち	中谷地の一部	和尚前
	前谷地	ちょうじやち	高岩の一部	鹿原の一部			
		はら	高岩の一部	高岩の一部			

ふるさと 再発見

旧地名を訪ねて

大熊町では昭和四十二年国土調査の結果、字名の整理、統合を行いました。それにより旧地名が消え、味気ないさびしいと思われた方も多かつたのではないでしようか。新しい地名になつてから四十年近く、慣れてしまえば愛着も湧き、何ら不都合も感じません。旧地名をまつたのではないでしようか。

たく知らない世代が増えてきました。地名はそのときの様子や歴史を物語ることもあり、逸話も残されています。古い字名を掘り起こすことによって連綿としたこの町の歴史、いわれ等を知るのも大切な事と考えます。

今回から旧地名やその由来などに焦点を当て、その地区を訪ねてまとめてみました。又前回シリーズで見落とした新しい発見なども含めて編集いたします。第一回は夫沢地区です。

今回のシリーズにあたり、地名の場所などを知るために夫沢地区を巡つてみました。車で中央台から長者原、浜街道（通称）を走っているうちに、今まで気づかなかつた石仏や碑、地蔵様があることに気が付きました。

喰津沢橋周辺

虚無僧碑 ②



浜街道の整備が進められているが、旧浜街道沿いに庚申様、地蔵様、虚無僧碑などがあつた。又、近くの正円寺跡地には十九夜觀音、阿弥陀如来、湯殿山碑が祀られていた。



虚無僧碑などについて
夫沢地区には熊町虚空藏尊、
湯殿山の碑は明治二十三年
ごろ二十数名の有志で建てられたものだが、道端にあったものを平成十二年に正円寺跡地に移した。その時記念に菩提樹を植え、その由来を記してある。

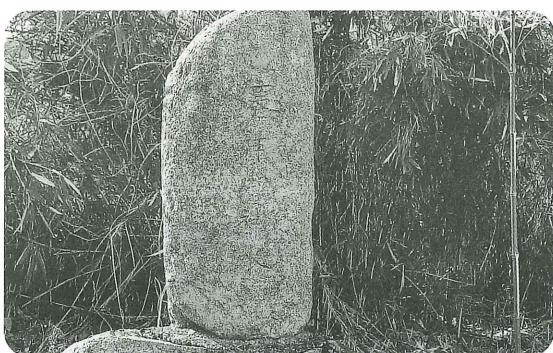
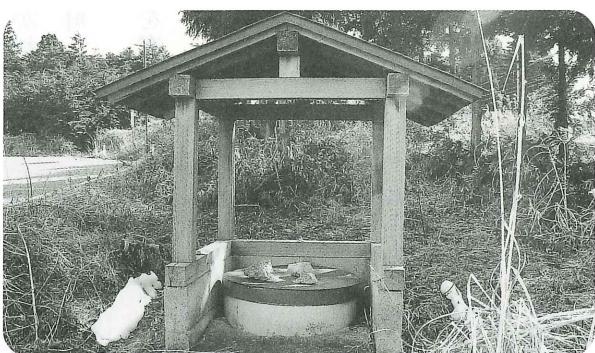
正円寺跡地の湯殿山碑など ①



（夫沢地区 住民談）

愛宕神社、塞神社などがあり歴史的に由緒のある地域なのだが、目立たない小さなものが浜街道の工事などでなくなってしまう可能性があるので、わかっているうちにまとめて保存していかなければならぬと思つてている。

塞神社の神水 ④



むかしむかし長者様が住んでいた。長者様の田植えは毎年近郷から集まつた何百人の人がかり出されて一日で田を植えるのが慣わしで、朝早くから田植え踊りの笛や太鼓にあわせて早乙女たちが田植えをしていた。長者様は見事な眺めだと誇らしく眺めていた。やがて阿武隈の山脈に日が落ちようとしているのに田植えは終わらない。くやしがつた長者様は黄金の靴をはいて田んぼに入り、「こら、太陽をかえせ」と大声で怒鳴り、山に沈みかけた太陽を一間ほど戻し、その間に田植えを終わらせてしまつた。太陽でも意のままに出来ると自慢豪語していたがそれを境に長者様の家運は傾いてしまつた。羽振りのよさはいつまでも続くものではないという教訓も含まれている

（民話 苦麻川第九話参考照）

地名由来の民話 長者原「落陽物語」

塞神社神水の碑 ⑤